「現場力」を身につける。
教室からフィールドへ―

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

2023 大学院案内

これからの社会を構想するために

東北大学
公共政策大学院院長
西岡　晋

東北大学公共政策大学院は、公共政策分野の担い手として高度な専門的知識や能力を身につけた「政策プロフェッショナル」を育成することを目的に、2004年に発足いたしました。政策プロフェッショナルとして必要な知識や能力とは何か、どうしたらそれらを大学院で教えることができるのか。私たちが出した一つの答えが「現場力」であり、現場力を身につける場としての「ワークショップ」という授業形態です。

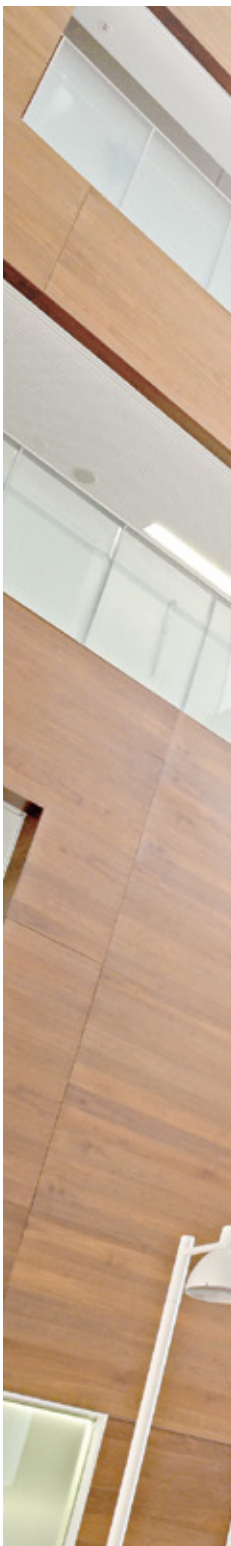
公共政策の企画・立案は、問題の発見、原因の分析、解決策の探求、政策の提言という一連の過程から成り立っています。そこでは、多くの専門的・学術的な知識も必要です。しかし、そうした「知識」は、頭のなかに入れておくだけでは干からびてしまいます。実践の場で生かすことによって、はじめて真の価値が発揮され、「知恵」となるのです。

頭のなかの「知識」を生きた「知恵」へと昇華するために必要なのが、現場力です。問題が実際に生起する現場に入り込み、自分の目で観察し、人びとの声に耳を傾け、その土地の歴史を理解する。現場で得た情報をもとに、現場の具体的な姿を頭に描きながら、政策を構想することができる。現場力とは、こうした力の総体です。

現場力を身につける場として私たちが用意しているのが、「公共政策ワークショップ（WS）」です。毎年度4つ設けられ、学生はそのいずれかに所属します。中央省庁から派遣された実務家教員と研究者教員が共同で、実務と理論の両面から指導を行うこともWSの特徴です。WSでは、実際の行政機関や民間企業と同じく、チームとして一つの課題に取り組みます。そして、現場に赴いてヒアリングや調査を行い、政策案を練り上げていきます。それは、これからの社会の理想を考え、構想するという意味で、クリエイティブなプロセスでもあります。

私たちの地元である東北地域は、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けました。WSでは、仙台や宮城をはじめとする多くの東北地域の現場に出かけていき、復興や防災・減災、コミュニティの再構築、あるいは農業の再生といった課題を抽出・分析し、解決に向けた政策提言を行ってきました。これらの課題は東北地域に限られるものではなく、日本のその他の地域でも重要なものばかりです。さらには、新型コロナ対策のような緊急の課題や経済安全保障のようなグローバルなテーマも取り上げ、日本各地だけでなく外国にも調査の足を延ばしてきました。現場は至る所にあるからです。

本大学院の修了生は、国、地方自治体、シンクタンク、マスコミ、民間企業などさまざまな職場や分野で活躍しています。大学院で身につけた現場力や能力は、どのような分野に進もうと、役に立つものだと自負しております。修了生が経験し、また現役生が今まさに取り組んでいるのと同じように、私たちと一緒に現場に赴き、そして、これからの社会のあり方を構想してみませんか。みなさんのご参加を、心よりお待ちしています。



東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

Contents

院長あいさつ ……02
3つの特長 ……03
【特長1】　実践的なワークショップ……04
2022年度　公共政策ワークショップI……06
【特長2】　高度で多彩なカリキュラム ……08
教員紹介 ……10
【特長3】　少人数制によるキャリア形成支援 ……12
座談会　公共政策を学び始めて ……16
さまざまなフィールドで活躍する修了生 ……19
就職・進路関係 …… 21
入試関係情報 …… 23

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、詳細な情報をご覧いただけます

「公共」のプロフェッショナルをめざして

3つの特長

特長1

実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策提言をつくりあげていきます。

特長2

高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

特長3

少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。

修了者には「公共法政策修士（専門職）」の学位を授与

特長
1
実践的な
ワークショップ

公共政策ワークショップ

東北大学公共政策大学院の「真髄」

POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。

公共政策ワークショップⅠ（1年次必修）、ⅡA・ⅡB（2年次必修）

1年次の「公共政策ワークショップⅠ」（通年12単位）では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ7、8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップⅡA・ⅡB」（計8単位）は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップⅠ」と同様です。

復興10年踏まえ提言
東北大大学院生が報告会
あすへ
東日本大震災
グループごとに提言を発表した報告会

出典：2021年12月23日 河北新報社記事

公共政策ワークショップⅠの進め方

1 基礎知識の習得

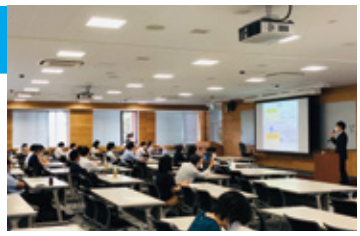
出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。
まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2 現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。

3 報告会Ⅰ（7月下旬）

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。
学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。



4 政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、
リアリティのある政策提言を追求していきます。

5 報告会Ⅱ（12月下旬）

公共政策ワークショップⅠ最大の「やま場」。提言先等の方からもコメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。

6 最終報告書の完成・ 提言先への説明・送付

在学生から

ワークショップから得られる学び

広島県出身
東京大学法学部卒業　來山 歩美（2021年度入学）

本学の一番の魅力は公共政策ワークショップだと思います。実務家教員のアドバイスはもちろん、現場の方へのヒアリング調査によって、文献調査だけでは気づけなかった重要な課題の発見や実現性のある提言につなげられます。加えて各ワークショップの運営も学生の主体性に任されており、メンバーと時にはぶつかりながらも一つの提言へとまとめ上げる経験は私に大きな学びをもたらしました。

ご自身で今の自分に必要な学びが何かを考えた先に、本学での学びがあれば嬉しく思います。

2022年度 公共政策ワークショップ Ⅰ

「公共政策ワークショップⅠ」は、例年、概ね４つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。

ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロジェクトのテーマは、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

プロジェクト PROJECT A 故郷を元気にするオリジナルな地方創生・地域振興政策の研究

知事や市長になったつもりで故郷を元気にする地域振興政策を提案しよう!

主担当 教 授 **松村 孝典**

1992年農林水産省入省。
本省内の部局の他、交流人事を通じて、
国土庁（阪神淡路大震災）、
内閣官房行政改革事務局、山梨県庁、
静岡県焼津市役所、
東京海上日動火災保険の勤務を経て、
2021年より現職。

皆さんは、故郷の現状をどう感じていますか。幼少期などを過ごし思い出が一杯詰まっている故郷を、もっと素敵な街にしたいと思いませんか。本WSでは、学生の故郷の現状・課題を分析し、地域の強みを活かした地方創生の実現に向け、座学だけでなくフィールドワークも重ねながら、あるべき政策を模索・研究しています。

WSの学生の皆さんには、各府省や地方公共団体の地方振興政策や優良事例を学びつつ、柔軟かつ幅広い視点に立った政策の企画立案、多岐にわたる関係者との意見交換、各方面との調整・渉外実務等を通じ、社会人としての素養を磨くとともに、本ＷＳで得た知見を活かして、例えば就職面接時に「御庁・御社の業務・ビジネスを通じて自分の故郷を活性化したい。元気にしたい」と自己アピールする糧につなげるなど、このＷＳの活動を、新たな知識習得にとどめずに、将来希望する組織・部署で活躍するチャンス獲得にもつなげて欲しいと思っています。

プロジェクト PROJECT B 孤独・孤立対策の推進に関する研究

「誰もが声を上げられる社会」を目指して

主担当 教 授 **藤田 一郎**

1995年厚生省入省。
米国留学、滋賀県出向、タイ国赴任。
厚生労働省年金局国際年金課長、
医薬・生活衛生局生活衛生課長、
国土交通省住宅局安心居住推進課長を経て、
2021年9月より現職。

近年、雇用環境の変化や情報通信社会の進展、人口減少や少子高齢化、核家族化といった社会環境の変化を背景として、地域社会を支える地縁・血縁といった人と人の「つながり」は希薄化の一途をたどってきました。

このような中、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症対策のための緊急事態宣言や外出自粛要請は、経済活動の停滞をもたらすとともに、従前行われていた相談支援活動にも中断や手法の変更を強いることとなり、それまで内在していた孤独・孤立の問題を顕在化・深刻化させることとなりました。

これに対し、政府としても孤独・孤立対策担当大臣を任命し、政府一丸となって対策に取り組んでいるところですが、取組みはまだ緒に就いたばかりであり、より踏み込んだ対応が求められているところです。

プロジェクトBでは、孤独・孤立対策の実際の取組みの調査分析を通じ、対策の推進のための政策提言作りを目指して取り組んでいます。

プロジェクト PROJECT C　我が国の経済安全保障の確保に向けた研究

厳しい国際情勢の中、我が国の平和と繁栄を確保するため何ができるかを考えよう!

主担当　教　授　**坪原 和洋**

2003年警察庁入庁。
兵庫県生田警察署、警察庁警備企画課、
人事院給与第三課課長補佐、福岡県警察公安第一課長、
警察庁総務課課長補佐、東京都都民安全推進課長、
警察政策研究センター主任教授等を経て
2021年8月より現職。

今日の国際社会は激動の時期を迎えています。政治・経済・軍事の各分野における国家間の競争が顕在化し、パワーバランスの変化が加速化・複雑化しています。とりわけ「地政学的」とも呼ばれる国家間の緊張が高まり、ついに本年２月のロシアによるウクライナ侵略等の顕著な事態に至っています。経済面では近年はグローバル化による相互依存そのものを外交的手段として自国の政治的目的を実現するために利用する動きが散見され、国際経済が分断されかねない新たな状況も出現しています。こうした厳しい状況の中、我が国は「経済安全保障」の名を冠する担当大臣を設置、関連法案を通常国会で審議（本年４月現在）するなどの積極的な取組を進めています。

プロジェクトＣでは、我が国や外国政府の実務家・専門家等の生の声を聴き、現在進行形の課題について、学生ならではの視点で我が国の平和と繁栄を確保するための「経済安全保障」のグランドデザインを描きます。

プロジェクト PROJECT D　パラリンピックのレガシーとしてのダイバーシティ＆インクルージョン都市の形成に向けた研究

最先端のダイバーシティ＆インクルージョン都市を目指すため提言する!

主担当　教授・副院長　**御手洗 潤**

博士（工学）。
1992年建設省入省。
在シンガポール日本大使館、
内閣府（防災担当）、国土交通省都市局
都市計画課開発企画調査室長、
京都大学経営管理大学院特定教授、
内閣官房オリパラ事務局参事官、
復興庁原子力災害復興班参事官等を経て、
2021年より現職。

2021年日本最大の出来事は、COVID-19と東京オリンピック・パラリンピックでした。1964年の東京大会が好事例ですが、オリパラには社会を変える力があるといわれており、特にパラリンピックをきっかけに我が国に共生社会を実現しようという取り組みがこれまで数多く行われてきました。しかし、オリパラが終わり、真の共生社会を定着させることができるのか?あるいは過去のものになってしまうのか?

この点、海外選手の合宿等を受け入れ、オリパラ終了後も海外パラリンピアンとの交流を続けつつ共生社会を目指している都市の一つに、秋田県大館市があります。

プロジェクトDでは、大館市等を一つのフィールドとして、都市レベルでダイバーシティ＆インクルージョンの社会を実現するための具体的な政策提言を目指します。また、第三者・研究者の立場で調査・提言するだけでなく、学生がプレーヤーとして活動することで、政策実施者の立場を経験し、生きた提言に繋げます。つまり、「お外でボッチャ体験会（?）」を学生が企画運営します!

在学生から　現場と関わる、実践的な学び

埼玉県出身
上智大学法学部卒業　**須田　充**　（2021年度入学）

本大学院の最大の魅力は、学生という立場にありながら、実社会に非常に近い位置で学びを深めうる点だと感じます。「コロナ禍の地域政策」に向き合った私のワークショップでは、対応の最前線である自治体へのヒアリングを通じ、現実は机上で考えるほど単純ではないこと、現場の苦しみを身をもって体感しました。学部卒業から社会に出るまでの２年間、仲間と共に社会のあり方を考え抜く時間を持つことには大きな意味があると信じています。

特長 2

高度で多彩なカリキュラム

実践的なアプローチを裏打ちする確かな理論の習得

POINT

「現場重視」と両輪となるのが公共政策に関する「確かな理論の習得」です。理論的な裏付けのない単なるアイデアの寄せ集めでは「政策」とは呼べません。このため、法学、政治学、経済学など多角的なアプローチを身に付けるための履修科目を用意しています。

カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。
修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
必須科目（政策調査と論文作成の基礎、公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップIIA）	必須科目（公共政策ワークショップIIB）
基幹科目	基幹科目	基幹科目	基幹科目
展開科目	展開科目	展開科目	展開科目

必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI（12単位）」及び「公共政策ワークショップIIA（2単位）」「公共政策ワークショップIIB（6単位）」並びに「政策調査と論文作成の基礎（2単位）」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論文作成のための基礎的な技法を習得します。論理的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行っています。

基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法律学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されています。科目によっては、研究者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計大学院の授業を履修することもできます。

東北大学公共政策大学院科目一覧（令和4年度実績）

1 必須科目

■公共政策ワークショップⅠ
・プロジェクトA ・プロジェクトB
・プロジェクトC ・プロジェクトD
■公共政策ワークショップⅡ A・B
■政策調査と論文作成の基礎

2 基幹科目

公共政策基礎理論／公共政策特論／実務政策学
地域社会と公共政策論／行政の法と政策／国際社会と各国法秩序
租税制度論／政策税制論／公共哲学／地方自治法／防災法
グローバル・ガバナンス論／経済学理論／財政学

3 展開科目

法と経済学／環境法／実務労働法／社会保障法／経済法／国際関係論演習／比較政治学演習
ヨーロッパ政治史演習／西洋政治思想史演習／日本政治外交史演習／防災政策論演習
アジア政治経済論演習／中国政治演習／環境・コミュニケーション演習／経済産業政策特論
比較公共政策／震災復興における政治・行政／日本政治演習／行政学演習／援助と開発演習
政策評価論／政策分析の手法／経済と社会／現代政治分析演習／開発協力論演習／政策提案型現地演習
多様性社会と法演習／体験型防犯施策演習／政策過程の歴史分析

※上記科目は、令和4年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

在学生から

恵まれた環境

広島県出身
九州大学法学部卒業　**藤井 崇史**（2021年度入学）

振り返れば本大学院は、身の丈以上の成長を促す環境でした。実績も知見も不十分な自分が、実務家教員の先生方の人脈や経験、研究者教員の先生方の知見をふんだんに活用させて頂き、1つの政策提言を作成することができました。また、多様なバックグラウンドを持つ学生の頭を借りながら、自分の能力以上に研究活動を進めることができました。この様に、本大学院は熱意と意志があれば何らかの成果を出せる環境です。公共精神と政策への興味・関心があれば、ぜひ本校の門を叩いてみて下さい。

教員紹介

国際法　理事・副学長・教授　**植木 俊哉**

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。
2004年から2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、
2006年から東北大学理事・大学院法学研究科教授、現在に至る。専門分野は、国際法・国際組織法。

充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特長としています。皆さんは、「公共政策ワークショップ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしています。

中国近代政治史、現代中国政治

教　授　**阿南 友亮**

1972年東京生まれ、慶應義塾大学法学部卒。
慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻
博士課程単位取得退学。博士（法学）。2011年に
東北大学赴任、2014年より現職。
専攻は政治学（中国政治、日中関係）。

地に足のついた解決策を編み出そう

日本が抱える行政課題は多岐にわたります。公共政策大学院での学びの大きな特徴は、それらの課題の中身について分析することに留まらず、具体的な解決策についてじっくり考察し、提案することです。ぜひ本学で仲間たちと一緒に日本が必要とする解決策についてトコトン考え、議論してください。

行政法

教　授　**飯島 淳子**

東京大学法学部卒業、
東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。
2012年より現職。

これからの社会を作っていくには

命を脅かす危機や時代の急激な変化のなかで、それでもこれからの社会を作っていくには……。一人で考えるにはあまりにも重い課題かもしれません。仲間とともに、身近な現場から密に学び、真剣に議論を交わしながら、チームとして政策を作り上げ、社会に問いかける。こうした決して簡単ではないことを肌と頭で地道に、確実につかみとる「場」として、東北大学公共政策大学院は独自の意義をもつと考えています。

外交政策

教　授　**今西　淳**

1993年外務省入省、英国研修後、在南アフリカ大使館へ。
その後、国際協力局（JICA担当）、欧州局、名古屋COP10
準備事務局を経て、国連代表部で勤務。
復興庁出向後、本省危機管理調整室長、儀典総括官を経て、
2019年11月より現職。

「誰一人取り残さない社会」の実現に挑む

当院の公共政策ワークショップでは、国内で唯一、政策課題に「共同で」1年間取組んでいます。学生が、霞が関で政策に携わる実務家教員、理論・研究に精通している研究者教員と、熱い議論を重ねて提言を創り上げる醍醐味があります。

今日の政策課題は、日本一国だけでは解決できません。日本を取巻く情勢、各国・国際社会との繋がりを分析し、対処することが不可欠です。人間の安全保障の実現に向けて、是非一緒に取組みましょう。

行政法

教　授　**大江　裕幸**

山形県出身。東京大学法学部卒業。東京大学大学院
法学政治学研究科博士課程単位取得退学。
信州大学講師、准教授を経て2021年4月より現職。
専攻は行政法。

公共政策実現のツールとしての行政法

皆さんは、行政法にどのようなイメージをお持ちでしょうか。公務員試験のために懸命に暗記する（した）法律科目の一つといったところでしょうか。行政法は、法解釈論としての側面だけではなく、制度設計論としての側面を有しており、公共政策を考える場合には後者の側面が特に重要になります。法的な可能性と限界を見極めつつ、公共政策実現のツールとして行政法を使いこなす姿勢と能力を修得されることを期待しています。

比較政治学、政治経済学、国際ボランティア論

教　授　**岡部 恭宜**

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。
博士（学術）。東京大学社会科学研究所、JICA研究所
を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、
国際ボランティア論。

多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学といった複数の学問から焦点を当てることも必要ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠かせません。研究対象についても、中央や地方の政府の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国家アクターの戦略や行動に目を向けることが求められます。本学はこうした多様なレンズを用意しています。是非覗いてみて下さい。

政治思想史

教　授　**鹿子生 浩輝**

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒、
九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程
修了。博士（法学）。2017年4月より現職。
専門分野は政治思想史。

実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそもどのような政治的価値に基づいているのか、その価値判断それ自体が適切なのか。こうした根源的な問題の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかもしれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

行政法

教　授　**北島 周作**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学
研究科博士課程修了。博士（法学）。成蹊大学法学部
准教授、東北大学法学研究科准教授等を経て、
2015年12月より現職。専攻は行政法。

地道な基礎トレーニングの必要性

公共政策大学院に入ってこられる方は、公務員となって政策の企画立案をし、社会問題を解決したいという方が多いと思います。しかし、例えば、打つ練習、投げる練習だけでは野球はうまくならず、筋力トレーニングやランニングを必要とするように、政策を企画立案し、それを実施するためには、基礎となる理論や道具となる法律に関する理解を深めることが不可欠です。公共政策大学院でこうした基礎トレーニングを行ってくれることを期待しています。

労働法

教　授　**桑村 裕美子**

鳥取県出身。
東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究科助手、
東北大学大学院法学研究科准教授を経て、
2021年8月より現職。博士（法学）。

困難な問題にどう向き合うか

社会の問題は複雑で、簡単に「解決策」を導き出すことはできません。しかし、現在の政策でうまくいっていないならば、何かできることがあるはずです。本大学院の様々な授業を受講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経験をしてみませんか。単なる思いつきではなく、しっかりとした制度理解に基づく政策立案の手法・プロセスを学ぶことができるのが、本公共政策大学院です。

国際関係論
教　授　**戸澤 英典**

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。EU代表部専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年4月に東北大学赴任。2014年から2016年まで公共政策大学院長。2022年より法学研究科長・法学部長。

手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワークショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体となって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展させていると自負しています。少子高齢化や格差社会の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく国際状況はますます険しさを増していますが、この難しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。

国際法
教　授　**西本 健太郎**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。2019年8月より現職。専門分野は国際法・海洋法。

変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これからも通用するとは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経済のグローバル化による産業構造の変化といった様々な変化の中で、そうした局面は今後増えていくことでしょう。変化する時代の中では、過去のやり方にとらわれず、表面的な新しさにも惑わされず、課題の本質を的確に見極めることが一層重要になります。東北大学公共政策大学院では一つの課題と徹底的に向き合うための場を用意して、皆さんをお待ちしています。

環境政策
教　授　**廣木 雅史**

新潟県出身。1988年環境庁入庁。厚生省、外務省、北九州市役所、総理大臣官邸、四国経済産業局に出向。環境省地球環境局総務課長、水・大気環境局総務課長、独立行政法人環境再生保全機構理事等を経て、2020年8月より現職。

「鳥」「虫」「魚」の目で政策を考える

今や地域の政策であっても、気候変動問題やウクライナ情勢など、時間的・空間的に広範な課題に大きく左右されています。そのような中で今後の公共政策を考えるには、全体を俯瞰して客観的な視点で大きな流れをつかむ「鳥の目」、地域の現場に密着して観察し問題の本質を探る「虫の目」、今後の物事の動向・変化を捉える「魚の目」という3つの視点が不可欠です。本学での学びを通じ、3つの視点により次世代に継承できる政策を立案する力を身に付けませんか。

日本政治外交史
教　授　**伏見 岳人**

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。2019年8月より現職。専攻は日本政治外交史。

日本の未来像を議論する

公共政策ワークショップは、地域社会や国際社会の直面する現在進行形の問題を取り扱う実践的な教育プログラムです。全国各地から集う仲間たちと共に、自治体や現場でのヒアリングを数多くこなし、多種多様な資料を読み込んで、チームとしての提言にまとめていく作業は、公共政策の担い手を志す人々には一生の財産と呼ぶべき貴重な経験になることでしょう。この仙台の地で、皆さんと一緒に日本の未来像を真剣に議論できることを楽しみにしています。

防災政策、事業継続計画（国土交通省出身）（本務：災害科学国際研究所）
教 授（兼務）**丸谷 浩明**

1983年東京大学経済学部卒。建設省入省後、内閣府防災担当企画官、京都大学経済研究所教授、（財）建設経済研究所研究理事（東京工業大学特任教授を兼務）、内閣府防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策研究官を経て、2013年10月より現職。経済学博士。

東日本大震災の被災地で防災を学ぶ

東北大学は、東日本大震災の被災地の唯一の「総合大学」です。また、東北はいまだ復興の途上で、問題が続いています。2015年3月に仙台で開催された「国連防災世界会議」で「仙台防災枠組」が採択され、世界から注目されている中、この地でぜひ防災を学びましょう。身近な防災の知恵から、若者の地域の防災での役目、そして防災から見た政府・自治体の政策枠組みまで、視野を広げてください。

現代政治分析
准教授　**金子 智樹**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。日本学術振興会特別研究員を経て、2021年10月より現職。専門分野は現代政治分析（日本政治・政治コミュニケーション）。

公共政策をいかに分析するか

現代の日本が抱える政策的な課題は膨大かつ切実です。特にこれから社会に出る若い皆さんは、「負担の分配」という困難な現実に、当事者として直面せざるを得ません。本大学院で日本の公共政策に向き合うことは、パブリックなものに奉仕する第一歩となるでしょう。私の専門である現代政治分析は学際的な分野であり、データ分析やフィールドワークなど、そのための様々なアプローチを提供します。お会いするのを楽しみにしています。

租税法
准教授　**藤原 健太郎**

長野県出身。東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教、同講師を経て2021年4月より現職。

緻密な理論的思考で社会を動かす

首尾一貫した公共政策を実現するためには、その背景にある理論を学ぶことが不可欠です。本学公共政策大学院では、ワークショップという実践を重んじる授業に加えて、深い理論を学ぶ授業が提供されています。普段は役に立たないようにも思える理論も、判断に迷うような場面で政策決定を求められたときに導きの星になってくれます。我々は、皆さんが緻密な理論的思考を武器にした公共政策の担い手になることをサポートします。

行政法
准教授　**諸岡 慧人**

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教を経て、2020年4月より現職。

確かな基礎に根差した実践を

みなさんは、本大学院の目玉である公共政策ワークショップにおいて、経験を積んだ実務家教員の指導のもと豊かな実践の機会を与えられます。しかし、多くの研究者教員が運営に携わっていることもまた本大学院の魅力の一つであると私は考えます。講義や演習において、基礎に立ち返って熟考する機会をみなさんに提供できるよう、一研究者として努力します。仙台という魅力的な街で共に学びましょう。

公共政策大学院長
教 授　**西岡　晋**（行政学）…… 2ページ

教 授　**松村 孝典**（農林水産政策）…… 6ページ

教 授　**坪原 和洋**（社会安全政策論）…… 7ページ

教 授　**藤田 一郎**（社会保障政策）…… 6ページ

教授・副院長　**御手洗 潤**（まちづくり政策）…… 7ページ

特長 3

少人数制による キャリア形成支援

教員との近い距離感、実務家教員も含めたキャリア形成支援

POINT

公共政策ワークショップⅠ・Ⅱの指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシヴに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生については、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の強みを活かした取組も行っています。

我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

在学生から

学部や他研究科にはない学び・出会い

神奈川県出身
筑波大学人文・文化学群卒業 **中野 景太**（2021年度入学）

本学には様々なバックグラウンドを持つ学生がおり、各人が高い志を持っているため、とても刺激的な毎日を送れます。また、1年次に行う「公共政策ワークショップ」では、学生同士で1年間議論し、時にはぶつかり合うことで、自分の視野の拡大や他者理解など、多くの何にも代え難い経験を得ることができます。また、実務家教員の授業やワークショップ内でのヒアリングを通して、実学的な知識を広範に身につけることもできたと感じております。これらの経験ができるのは本学ならではであり、とても価値のあるものだと確信しています。

Campus キャンパスライフ life

2022年6月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、芋煮会等の懇親行事は行っておりません。

東北大学では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針(BCP)等に基づき、感染対策と本学における研究活動をはじめとする諸活動との両立を進めています。

なお、本冊子の集合写真でマスクを着用していないものは、撮影のために一時的に外した場合、2020年以前に撮影されたもの等です。

働きながら学び直しを希望される社会人の方に

東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。

地方自治体職員

財前　輝久　大阪府出身（2021年度入学）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

現在、地方自治体の経済部署で働いています。今般のコロナ禍により、周囲を取り巻く環境が急速に変わっていく中で、With/Afterコロナにおいて、行政の立場で、地域に対しどのような政策・施策が求められるか、様々な視点・視座に立って考え、行政職員として、この激動の時代においても対応できる力を身に付けたいと強く思うようになりました。

また、様々なバックグラウンドを持たれている方々と学び合う環境に身を置くことで、自身の成長につながると考え、入学しました。

仕事との両立について

授業に関しては、有給休暇や夏季休暇などを使いながら履修しました。仕事の関係で、授業に参加できない時や遅れてしまう時もありますが、担当教員やクラスメートに支えて頂き、仕事と学業の両立が出来ています。また、オンラインを活用した授業も多くあるため、自身の予定調整がしやすく、非常にありがたいです。

現在の学習内容

1年次は、ワークショップを中心にしながら、展開科目と夏季集中講座を履修しました。ワークショップでは、「震災復興10年の総合的研究」というテーマで調査を進めてきました。2年次は、仕事の関係で1年目に履修できなかった必須科目と基幹科目を中心に履修を進めています。履修登録に関しては、担当教員と相談しながら進めることができるため、自身の家庭や仕事の状況も考慮して、学習計画を立てることが出来ます。

今後の抱負

本学で学んだことを活かし、人口減少対策をはじめとする地方自治体が直面する各種社会課題に対し、実施可能なモデルとなる政策を現場経験も活かしながら立案・実施していきたいと思っております。また、様々な方々と交流し、関係を深めながら仙台・東北がより元気になる取り組みをしていきたいと思います。

1週間のスケジュール

2021年前期・後期（オレンジ…通年、ピンク…後期のみ）

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限		【公共政策ワークショップ】震災復興10年の総合的研究				【講義】経済産業政策特論（隔週）
4時限						
5時限						
6時限						

連続講義：政策評価論／この他、講義のない時間帯は勤務

2022年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限				【講義】政策過程の歴史分析		
2時限				【講義】租税制度論		
3時限	【講義】実務政策学D 社会安全政策論			【講義】実務政策学A 農林水産政策実学I		
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎					
5時限						
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務

働きながら学び直しを
希望される社会人の方に

地方議会議員

髙橋　聡輔　宮城県出身（2020年度入学）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は2011年8月から、地元宮城県加美町の議会議員として行政に携わってきました。様々な研修等に参加し、議員のなり手不足の問題・地方議会の政策立案や提言の件数の少なさを改めて感じていました。10年を迎えようとしている頃、自らのスキルアップのために何かしなければと思っているときに、東北大学公共政策大学院の受験を決意しました。決め手は、知識を得るための研究者教員はもちろん、実務家教員の経験を踏まえた講義・指導を受けられることと、社会人にも無理なく履修できるための長期履修の制度があることでした。

仕事との両立について

長期履修を活用し、仕事・議員活動を行っております。1年目はワークショップや必修科目の曜日が固定のため、出席が難しい事もありましたが、仕事に対しての先生方のご理解や、仲間の協力で何とか両立できました。2年目からはコロナ禍に見舞われましたが、逆にオンラインの講義が増えたことにより、通学時間を気にせず受講する事もできるようになりました。私は、社会人学生として、長期履修を有効的に活用しながら無理なく履修をし、先生方との対面での講義・交流を大切にしながら着実に学んでいきたいと思っております。同期が修了していく寂しさは少し感じますが、その分新たな仲間との出会いを楽しみに学んでおります。

現在の学習内容

1年目のワークショップでは、自分の不得意な分野である農業について仲間と共に学びました。2年目以降は、世相に合った、地方創生・脱炭素社会の実現・SDGｓの三位一体的観点から、自治体運営に必要な法令改正等を学び、地域振興の効果や課題について抽出しているところです。今後は主観的・客観的の両面での視点からアプローチを行いリサーチペーパーの完成に向けて取り組んでいきたいと思います。またコロナの感染状況にもよりますが、ぜひ若い学生や先生方と、対面で積極的に議論や交流をし、少しでも学びの多い大学院生活をおくりたいと思います。

今後の抱負

公共政策大学院では、タイムリーな話題について実務家教員により解説していただけることも魅力の一つだと思います。地方行政に関わる仕事をしている私にとっては、今学んでいる国の動向などを、どのようにしたら地域に最適化できるかなどを検討し提言する事が、必要となります。修了までに知識だけではなく、多くの先生方とのネットワークを広げ、少しでも地域に還元できるように学んでいきたいと思います。

1週間のスケジュール

2021年前期・後期（黄色…前期のみ、ピンク…後期のみ、オレンジ…通年）

	月	火	水	木	金	土
1時限	【講義】実務政策学B 農林水産政策	【講義】行政の法と政策（隔週）			【講義】地域社会と公共政策論Ⅱ 地域農林水産政策	
2時限				【講義】実務政策学J まちづくり地域づくり演習		
3時限				【講義】実務政策学K 農林水産演習		【講義】実務政策学H 社会安全政策
4時限					【講義】実務政策学A環境政策	
5時限					【講義】公共政策特論I	
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務（公務または自営業）

2022年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限			【講義】実務政策学F 社会保障政策論			
3時限					【講義】地域社会と公共政策論I 地域環境政策（隔週）	
4時限						
5時限						
6時限						

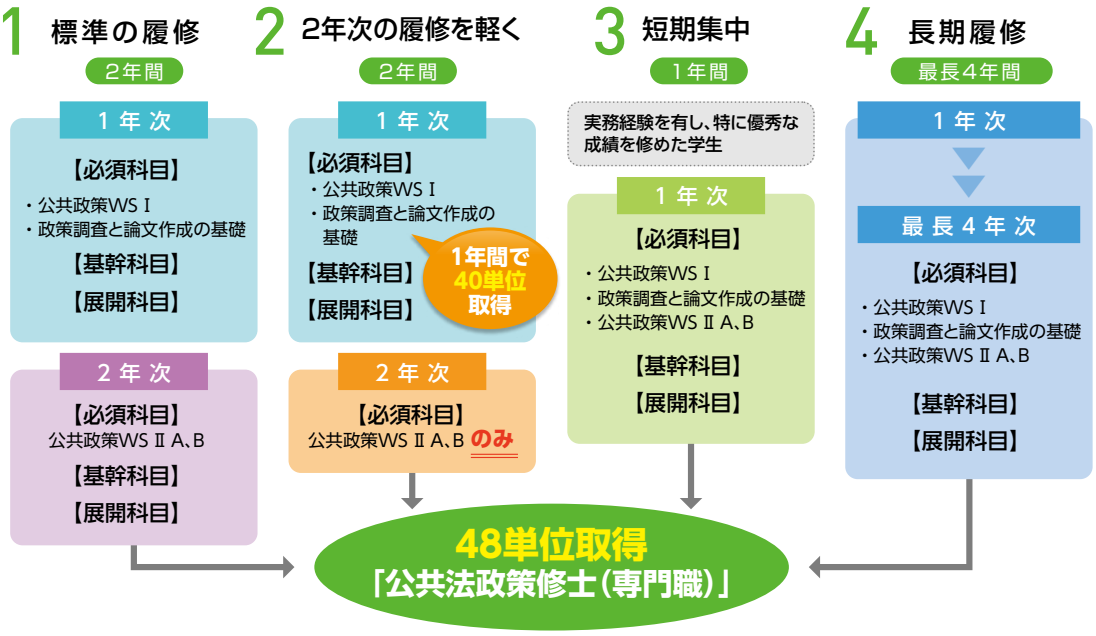
<2022年度夏季集中講義>政策提案型現地演習（まちづくり・地域づくり）
この他、講義のない時間帯は勤務（公務または自営業）

※2020年は必須科目（「公共政策ワークショップI」「政策調査と論文作成の基礎」）及び複数の基幹科目・展開科目を履修

他にも、市議会議員、町議会議員、国家公務員、市役所職員、民間企業社員、大学職員、NPO職員として働きながら又は休職して、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

社会人学生の履修モデル

東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間での修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



1 標準の履修 2年間

2年間で48単位を取得し修了します。

2 2年次の履修を軽く 2年間

公共政策WS Ⅱ 以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WS Ⅱ の8単位を取得し修了します。

3 短期集中 1年間

修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

4 長期履修 最長4年間

履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修（2年間）の場合と同額に設定されています。

! 地方公務員の方へ ～「自己啓発等休業制度」のご確認を ～

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給ですが、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

- ☑「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例
- ☑ 大学院も履修先として規定
- ☑ 休業期間は原則２年間

是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。

座談会 公共政策を学び始めて

この座談会は、2022年5月13日、教員の呼びかけに応じた有志の1年生4名、2年生2名が東北大公共政策大学院での経験を語り合ったものです。

住吉：去年はコロナ禍でオンラインでの座談会でしたから、直接会うとなんか緊張しますね（笑）。まず、東北大学公共政策大学院への志望理由を教えてください。

楊：中国からの留学生です。中国の大学では４年間国際関係を学んでいましたが、アウトプットの機会が少なかったため、公共政策大学院のワークショップが気に入ってこちらを志望しました。留学生が私一人だったので友だちを作れるか心配だったのですが、ワークショップがあって皆さんと一緒に話し合う機会も多いので良かったと思っています。ワークショップAで「故郷を元気にするオリジナルな地方創生・地域振興政策の研究」に取り組んでいます。

武藤：転勤族であちこち転々としましたが、中学の３年間を仙台で過ごしました。学部時代は法律中心に学んでいたので、もっと政治や実際に運用されている政策について実体験として学びたいと考えここに来ました。ワークショップBは「孤独・孤立対策の推進に関する研究」という、今まさに最前線の内容で、第一線で活躍されている方のお話しも聞けてとても面白いと感じています。大学はすごく人数が多くて、特定の仲がいい人たちのコミュニティだったので、少人数で一緒にやっていくというのがとても新鮮で、これから楽しみにしています。

岡本：大学在学中にネパールやインドで海外ボランティアをやった経験や、コロナ禍という非常時に働く方々のニュースを見て、公務員に漠然とした憧れを抱きました。学部が観光学部で公共政策は学んでこなかったので、大学院で公共政策をしっかり学んだ上で働きたいと思い、こちらに進学しました。ワークショップCは「我が国の経済安全保障の確保に向けた研究」をやっています。一昨日、経済安全保障推進法案が参院本会議で可決され、まさに日本がこれからどうしていくか悩んでいる問題なので、そこに携わり１年かけて政策を立案することに大いなる意義を感じ、わくわくしています。

宮平：学部時代から公務員を考えていましたが、民間も経験してみたいと思い、1年間公共機関の会社等に勤めてから大学院に進学しました。東北大学公共政策大学院なら学問的な部分も、その政策の現場も見ることが出来ることに魅力を感じました。所属しているのは「パラリンピックのレガシーとしてのダイバーシティ＆インクルージョン都市の形成に向けた研究」という、横文字だらけのワークショップDなのですが、先日は車いすでの街歩きを実際に体験させていただきました。いろいろな立場の方の視点に立って現場を知るということが、本当に勉強になるなと思っています。

プレゼンの課題が出たりなど、ちょっと大変ですがどれも新鮮で面白いです

住吉：ワークショップはもう、調査に出かける段階でしょうか。

武藤：Bはまだ先生から基礎知識を教えて頂いたり、外部の方に来ていただいてお話を聞いたりインプットの段階です。ヒアリングなどを具体的に進めていくのは６月からになると思います。

楊：Aではまだ、メンバーそれぞれの故郷の政策の紹介が終わっていませんが、６月中にまず東北農政局や山形県でのヒアリングを予定しています。

住吉：Dは毎回遅くまで残って頑張っていると聞きましたが、いかがですか？

宮平：毎回１人二つのプレゼンの課題が出たり、輪読などもしっかりやってちょっと大変ですが、私は学部時代に福祉の分野をやってこなかったので、どれも新鮮で面白いです。もうちょっと早く終わると嬉しいですけど（笑）。

岡本：Cは結構最初から、「自己紹介終わったからどうぞ」みたいな形で投げられて、本当に１から自分たちで何をするかを決めていきました。経済安全保障ってそもそも何？みたいなところから始まったし、まだヒアリングはおろか、法案の条文など基本的なところをやっているので、今後どうなっていくのか結構心配です。

住吉：うちのワークショップは、学生の自主性をとても大事にします。そろそろリーダーが決まってくると思いますので、リーダーは頑張って引っ張っていって、あとの人はそれを支えるような感じでした。私たちも最初はまとまらない議論をどう整頓して組み立てていくか苦労しましたが、そこはぜひ頑張って貰いたいですね。

■ 司会者

コーエンズ 英理
山形県出身
津田塾大学出身
（2021年度ワークショップC所属）

住吉 泰誠
群馬県出身
東北大学出身
（2021年度ワークショップD所属）

■ 参加者

楊 瑞
中国出身
華僑大学出身
（2022年度ワークショップA所属）

武藤 誉仁
千葉県出身
関西大学出身
（2022年度ワークショップB所属）

岡本 樹
宮城県出身
立教大学出身
（2022年度ワークショップC所属）

宮平 ひなた
神奈川県出身
国際基督教大学出身
（2022年度ワークショップD所属）

※写真撮影のためにマスクを外しております

コーエンズ：Cは唯一の国際的なテーマを扱うワークショップ。私も昨年はCだったのだけど、結構アカデミックな内容で、大使館へのヒアリングとなると準備も手間がかかりますね。
岡本：海外調査も台湾に決まっています。
コーエンズ：質問の英訳なども大変だと思うので、頑張ってくださいね。

様々なバックグラウンドを持った方々と意見交換出来ることが本当に楽しい

住吉：ワークショップ以外の授業で面白いと思うものはありますか？
宮平：鹿子生先生の「公共哲学」が面白いです。大学時代に専攻していた「哲学・宗教学」は自分の生活との関係があまりなかったのですが、公共哲学では政策の根底にある価値観やこうあるべきといったものを感じられて、自分の生活とリンクしてとても面白いんです。輪読でマイケル・サンデル教授の「これからの『正義』のはなしをしよう」を読んでいます。
武藤：面白いというか勉強になるなと思っているのは、ほとんどの授業で発表や話し合いの時間があること。学んだことを頭の中で整理して、自分の考えを論理的にどう説明するかということがとても新鮮です。何より大学院は、同じような環境で過ごしてきた人だけではなくて、様々なバックグラウンドを持った方々と意見交換出来ることが本当に楽しいですね。
住吉：講義でもワークショップでも、いろんな方々と話せるといいうのは、うちのいいところですね。
楊：研究大学院との合併授業ですが、伏見先生の「日本政治外交史演習」を履修しています。５人のゼミなのですが、私も含めて４人が中国人で、もう１人は博士課程の日本人です。様々な授業を履修できるのも、公共政策大学院の魅力だと思います。
住吉：研究大学院の話が出ましたが、研究大学院や他の研究科・学部の授業も取れるというのは、うちの面白いところですね。みんな興味はありますか？
岡本：学部生の授業も取りたいと思っていたのですが、前期は都合が付かずあきらめました。今後は学部生の授業も取って行きたいなと思っています。
宮平：やりたい方向が見えてきたら、来年ちょっとやってみたいですね。
コーエンズ：M2の前期は公務員試験や就活もあるので、あまり詰め込まないほうがメンタル的にいいかもしれないですよ（笑）。

ワークショップを超えた交流があるのは、去年は出来なかったのですごく羨ましいです

住吉：仙台での暮らしや交友関係はいかがでしょう。慣れてきましたか？
楊：仙台に来る前は日本語を勉強するため埼玉県所沢市に住んでいたので、大都市はわかりませんが仙台は住みやすいですね。緑も多く交通機関も便利です。何よりも、大学の職員の方々が大学での手続き方法などたくさん支援してくださったり、わからないことにも丁寧に答えてくれるので、おかげで学生生活全般に問題ありません。大変なのは、毎日日本語を喋らなければならないこと（笑）。日本語学校でも3〜4分のプレゼンはありましたが、いきなり30分、それも暗記してプレゼンするのは大変でした。
住吉：そうですね。ワークショップなどでたくさんやり取りするわけですから、力になると思います。あと大変なのは、松村先生の関西弁。
楊：そして彼のジョークが、私は全然わかっていなくて。
住吉：日本人でも先生の笑いのツボはちょっと違うなと思う人もいるので（笑）、１年間松村語録を蓄えていってください。
武藤：大学院が仙台駅に近く、アーケードに入れば必要なお店が揃っているので便利ですね。家から大学までは自転車ですが、どこに行くにもバスが走っていて、地理的な環境も整っています。学生間の交流も、ちゃんと楽しくやれています。
コーエンズ：女子が少ないので、団結力というか仲良くなりますね。長期履修の方も含めて全体で９人かな。昨年と違って、今年はこの時期からある程度お茶には行けるので、ワークショップを超えた交流があるのは、去年は出来なかったのですごく羨ましいですね。
岡本：学部時代はずっとコロナ禍が続いていて、ようやく毎日大学に来られるようになって、あらためて純粋に学校生活の楽しさを実感しています。自分がいた学部は国家公務員を目指す人がほぼいなかったので、一緒に官庁訪問に行こうみたいな話をしたり、同じ志を持った人たちが多いというのもすごくいいですね。仙台出身なので、今は実家から通っています。
住吉：久しぶりの実家ということは…。
岡本：いつでも食事が出て来るということで（笑）。
住吉：帰って来て一番実感するのはそこだよね（笑）。

宮平：家が大学からめちゃくちゃ近いので、これまで住んだ中で一番便利な場所で暮らしています。学校に来ている皆さんの心意気がすごいです。公共政策を学んで将来は自分が役に立つんだという気持ちの強い方ばかりで、見習わなきゃという気持ちにさせられます。

社会人の方は「ロジ」の部分を作るのが上手くて参考になりますね

住吉：確かに志が高いというか、とても芯のある人がたくさん来ていますね。皆さん、社会人学生の方々と接してみてどうですか？
楊：うちのワークショップには社会人の方が３人います。何をする時も落ち着いていて慌てず、質問する時も視野が広いです。彼らを参考にして、自分のこれからをどうすればいいのかも考えたいと思います。特に授業が終わってから、責任感を持ってこれからのスケジュールを決めていくところがすごいです。
住吉：よく「ロジとサブ」みたいな言い方をするんだけど、ワークショップでどういう議論をするかのような中身がサブで、いつまで何をするか、調査に行く時の手配をどうするかというのがロジ。社会人の方はやはりそのロジの部分を作るのが上手くて参考になりますね。
コーエンズ：ヒアリング先へのメールの書き方や電話のかけ方とかも、これまでやってこなかったからわからないじゃないですか。それを社会人の方のメールを参考にしていたおかげで、今は就活などでも人事の方とのやり取りに役立っています。あと、本当に飾らないというか、“お姉ちゃん”のような方がいて、何でも相談出来て、メンタル的なサポーターになってくれました。

住吉：社会人学生のほうもGoogle ClassroomとかITの面で私たちに質問される方もいたり、若い感性や自由な発想といったものをリスペクトしてくださる方もいらっしゃいます。お互いに、双方向でいろいろ刺激し合えたら一番いいですね。

研究への興味が本当に深くなったら、博士課程に進むことも考えています

住吉：今後の進路や目標をどう考えていますか？

岡本：自分はコロナ禍で働いている公務員の方々のニュースを見て公務員に憧れているので、緊急時に活躍できる人になりたいという思いがあります。公務員に限らずNPOなどでも現場で役に立てるところはあると思うので、そういったことを軸に将来の選択肢を見つけていければと思います。

宮平：私は今のところ地方公務員を目指していて、出来れば自分に縁のある東北か関東で働きたいと思っています。国家公務員もかっこいいなと思うんですけど、卒論で在日外国人に対するヘイトスピーチについて扱ったのですが、全国で初めて罰則付き条例を出したのが、神奈川県川崎市という地方自治体だったんです。国が突然方針を変えることは難しいけれど、地方自治体であればある程度柔軟にそれを打ち出していけるということにとても魅力を感じて、地方自治体がいいなと思いました。

コーエンズ：情報公開条例も全国で最初に制定したのは、山形県金山町。周りを見渡すと、地方の活気ある自治体から動いて、結果として国の制度が動くということも意外とあるんですね。

宮平：そういうふうに「地方から」というのをやりたいなと思っています。

住吉：地方自治体の方々も、社会が変わっていく中でこれまでやってこなかったチャレンジが求められてくるということがあります。ワークショップでは、地方自治体のそういった動きもたくさん見られると思うので、将来の選択にぜひ役立ててください。

楊：大学の時に重慶市と広島市の都市外交（姉妹都市）を研究して興味があるので、大学院でもその研究を続け、都市外交に関する仕事に関わりたいと思っています。もう一つ、日本政治外交史の研究への興味が本当に深くなったら、博士課程に進むことも考えています。だから、その日本政治外交史を研究する一方で、日本都市外交の仕事をしたいですね。

武藤：将来は国家公務員１本で考えていて、男女共同参画を進めていきたいと思っています。一女性として、このコロナ禍でDVや虐待が増えていることを他人事ではないと感じているので、女性の働き方改革が進められている中で、そういった女性の生活を支えていきたいと考えています。ゆくゆくは公務員では終わらずに、政治家になりたいんです。制度を作るだけではなく、具体的に国会で訴えかけたり、さきほど言ってくださったみたいに地方で具体的に変えていくことをしていきたいなと思っています。

住吉：すごい。長いスパンで考えているんですね。地方議員になられた方も、結構社会人学生として毎年何人か入って来られているので、国家公務員後のキャリアについてなどもわかると思うので、機会があればそういった方々に話を聞いて貰えればなと思います。

仙台は東北のニューヨーク!
ぜひ学びに来てください

住吉：東北大学公共政策大学院を志望される方にメッセージをお願いします。

武藤：まだ入学して１ヶ月ですが、勉強は本当に楽しいですし、人間関係もとても学びが多いです。頭での理解だけではなく、人格形成にもすごく役に立つところなので、ぜひたくさんの後輩の方に来て欲しいなと思います。

岡本：東京にいた時は、仙台は田舎とか言われていたんですけど、僕的には仙台は東北のニューヨークだと思うんで。

一同：（爆笑）

岡本：ぜひニューヨークだと思って、学びに来て貰えればなと思います。

住吉：いい街ですよって（笑）。

宮平：実際にここに入学してみて思うのですが、本当にいろいろなところから、様々なバックグラウンドを持った方々が来ています。私も１年社会人をしてから入りましたが、周りの方がそれを受け入れてくれています。ディスカッションする時でも、お互いの意見に気づきがたくさんあり、貴重な経験が出来る場だと思います。ぜひいろいろな後輩の方に来ていただけたらいいですね。

楊：知識はもちろん、行動力と友だちも出来る場所です。留学生の支援も手厚いので、だから留学生でも心配せずに、ぜひ公共政策大学院を志望してください。

住吉：ありがとうございます。うちの大学院は、一般的な大学院と比べると留学生の方が少ないので、これを機に社会人はもちろん留学生の方にも来て欲しいですね。ワークショップの中身はもちろん、学生同士のやり取りでもお互いに学びがあると思います。本日はありがとうございました。

2022年度の入学者の内訳

- 学部卒業後入学 22名
- 民間企業職員 6名
- 公務員 3名
- 法人職員 1名

合計32名

さまざまなフィールドで活躍する修了生

新しい時代を創るための実践的な力を学ぶ

国家公務員

阿部 慎平（2006年度修了）
防衛省大臣官房広報課 先任部員
山形県出身、東北大学法学部卒

写真は、防衛省が公開している東京裁判の法廷としても使用された市ヶ谷台記念館

16年前、当時入省1年目の私は、大学院のパンフレットに、大学院で得た知識はほとんど役に立たないが、考え方やノウハウは役に立つと書きました。省内で実務の中核を担うようになった今、改めて振り返ってみても、この考えは変わっていません。

これまでのキャリアの中で、防衛を始め、通商、地方創生など様々な分野の政策立案に携わりました。扱う政策分野は変わっても、新しい政策を生み出していくプロセスは共通しています。課題を理解し、分野横断的な知識を用いて、他の人と協働して、試行錯誤を繰り返していく。これは、大学院での実践的なカリキュラムで学んだことそのものでした。

更に重要なことは、こうした活動には、座学や単なるフィールドワークでは得られない、イノベーティブな楽しさがあるということです。この楽しさに早い段階で気づけるのは、人生の大きなアドバンテージになるはずです。みなさん、大学院で実践的な力を楽しく学んでみませんか？

一から学ぶことの可能性

地方公務員

横田 陽子（2020年度修了）
宮城県庁 土木部建築宅地課
宮城県出身、宮城大学事業構想学部卒業

建築を勉強した学部時代とは打って変わり、一から政策を勉強してみたい—。技術の勉強だけでは得られない、地に足着いた学びを求め、東北公共へ進学しました。

本学には私のように、公共政策以外の勉強をしてきた方も在籍しています。ワークショップでは各々のバックグラウンドを強みに、多角的な視点から議論を行いました。先生方、ワークショップの仲間、ヒアリングの先方など、立場・年齢・環境・考え方の違う人々の意見に相対し、考え続けた2年間でした。「公共性とは何か」を、実務的に経験できることが、本学の最大の強みだと思います。

私は現在、建築行政に携わっています。直近の社会情勢に対応した技術基準の見直しには、社会背景を把握する力が必要不可欠です。自らの専門分野以外にも広くアンテナを張り、業務に影響する話題をいち早く察知する能力は、間違いなく本学の学びで培ったものです。皆さんも自分の可能性を広げ、公共の学びの現場へと、新しい一歩を踏み出してみませんか。

さまざまなフィールドで活躍する修了生

東北大学公共政策大学院で学んだこと

経済団体職員

下川 真史（2020年度修了）　日本商工会議所企画調査部
神奈川県出身、明治大学法学部卒業

公共政策ワークショップⅠでは、1年間をかけて文献調査・ヒアリング等を行い、担当教員やワークショップの仲間と議論を重ねながら、政策提言を練り上げていきます。その過程で、実務家教員からは、「スケジュール管理・日程調整能力」「ヒアリング前の文献調査を徹底すること」「ヒアリングを有益なものにするために、質問文に一言一句にまでこだわり抜くこと」「問題の所在を把握するために実際に現場に足を運んで、現場の声を可能な限り集めること」など、座学では得られない「現場力」を学ぶことが出来ました。

現在、私は日本商工会議所という経済団体の職員として、政府等への提言活動に従事しています。大学院時代とは違い、中小企業や経営者の視点から物事を考える、という違いはあるものの、政策提言のプランを練っていく作業プロセス自体には大きな違いはありません。公共政策ワークショップⅠで培った「現場力」は、上記の業務を遂行する上で、大きな支えになっていると感じています。

このパンフレットを手に取った皆さんには、座学での学びだけでなく、仲間たちと切磋琢磨して「現場力」を身に付けることの出来る、東北大学公共政策大学院への進学をお勧めします!!

現場主義の体現を目指して

国家公務員

谷垣 聡一朗（2021年度修了）　岐阜県庁市町村課（総務省より出向）
兵庫県出身、京都大学文学部卒

「生まれも育ちも首都圏の人間が国の中枢で社会を動かしている。」京都で過ごした学部時代に自治寮の友人がふと放った、強烈な違和感を覚えた言葉。「日本という国家は北海道から沖縄まで、1718もの多様な自治体から構成されているため、社会制度の設計に携わる人間こそ地域の現場で何が起きているのかを体得しておく必要がある。」そのように考え、生粋の関西人であった自分の世界を拡張したいとの思いから、杜の都の門を叩きました。

みちのくで、そして東北公共で私を待っていたのは、徹底した現場主義。弊学のカリキュラムで大きなウェイトを占める「公共政策ワークショップⅠ」では、自分たちで仮説を立て、ヒアリングの現場に飛び込み、より良い政策提言に向け暗中模索する日々が続きます。身体的・知的体力を消費し、試行錯誤する日々は決して楽なものではないですが、1年間を乗り越えたあなたは、「頭でものを考える」だけでなく「手足を動かしてものを考える」視座を手にすることとなるのです。

就職・進路関係

東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

政策プロフェッショナルを目指す人

現　在

国家・地方・国際公務員を志望している。

既に公務員試験に合格している人も

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップで実務体験型学習
- ●公共政策の最先端理論の体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得
- ●実務家教員による公務員志望者に対する指導

在学中に公務員試験合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員

進路の幅を広げたい人

現　在

学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める
- ●自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習
- ●政策プロフェッショナルや企業マネージメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得
- ●指導教員によるきめ細かな進路指導

在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員
◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ
◆ ジャーナリスト　◆ 民間企業のマネージメント
◆ 博士課程に進学

社会人として一段階上を目指す人

現　在

中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。

東北大学公共政策大学院
（1年もしくは2年で修了、長期履修（上限4年）で修了）

- ●ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す
- ●公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得
- ●指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成

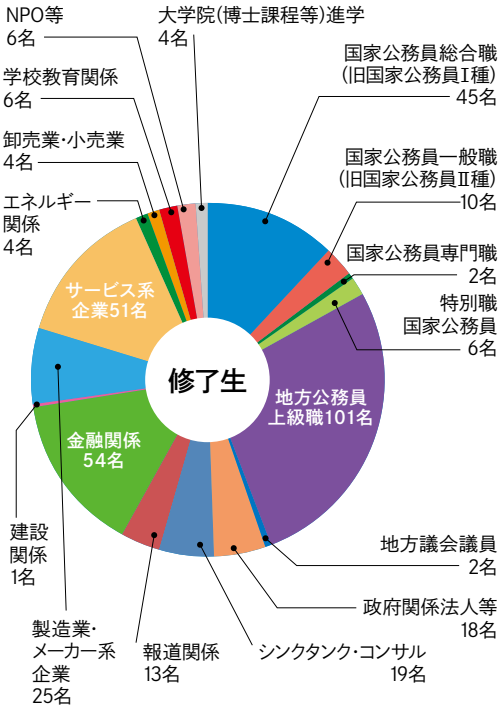
将　来

◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ
◆ 別の職へ飛躍

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

■ 修了生の主な進路先



- ●国家公務員総合職（旧国家公務員I種）・・・人事院、内閣府、公正取引委員会、総務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院、経済産業省
- ●国家公務員一般職（旧国家公務員II種）・・金融庁、公安調査庁、財務省、国土交通省、入国管理局、関東管区行政評価局、東京家庭裁判所等
- ●国家公務員専門職・・・・・・・・・・・・・・・外務省、関東財務局
- ●特別職国家公務員・・・・・・・・・・・・・・参議院事務局、陸上自衛隊幹部候補生、航空自衛隊幹部候補生
- ●地方公務員上級職・・・・・・・・・・・・・・東京都庁、北海道庁、岩手県庁、宮城県庁、秋田県庁、山形県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、神奈川県庁、山梨県庁、愛知県庁、兵庫県庁、沖縄県庁、札幌市役所、仙台市役所、横浜市役所、長野市役所、名古屋市役所、大阪市役所、北九州市役所等
- ●地方議会議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・仙台市議会
- ●政府関係法人等　・・・・・・・・・・・・・・・日本銀行、JETRO、国際協力機構、農林中央金庫等
- ●シンクタンク・コンサル・・・・・・・・・・・・日本総研、野村総研、富士通総研、三菱総研等
- ●報道関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、河北新報社、日本放送協会等
- ●金融関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、日本生命、明治安田生命、全国共済農業協同組合連合会、野村證券等
- ●建設関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東日本高速道路
- ●製造業・メーカー系企業　・・・・・・・・・・三菱重工業、JFEスチール、三菱ケミカル、三井化学、東芝、日立製作所、三井金属鉱業、日本新薬、日本製鉄、三菱マテリアル等
- ●サービス系企業関係・・・・・・・・・・・・・・日本IBM、JR西日本、NTTデータ、ベネッセコーポレーション、ヤマト運輸、JTB等
- ●エネルギー関係・・・・・・・・・・・・・・・・東北電力、北陸電力、静岡ガス等
- ●卸売業・小売業　・・・・・・・・・・・・・・・豊通食料等
- ●学校教育関係　・・・・・・・・・・・・・・・・学校法人昌平黌、宮城教育大学
- ●NPO等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・仙台ひと・まち交流財団等
- ●大学院（博士課程等）進学　・・・・・・・・東北大学大学院（法学研究科、医学系研究科、情報科学研究科）

※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

勉強、研究をサポートする充実した施設

1 ワークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。

所属メンバーは、ワークショップ室にいつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。

（2022年6月現在、毎週火曜日午後のワークショップの授業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ワークショップ室ではなく広い講義室を使用しています。）

2 自習室

エクステンション教育研究棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉学用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。

3 学生寄宿舎

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス（写真）をはじめとした各種学生寄宿舎を、低額で利用することができます。

奨学金その他の各種支援制度

1 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度があります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、半額又は３分の１の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金（無利子）、第2種奨学金（有利子）を申請することができます。そのほか、各種奨学金（地方公共・民間奨学団体等）があります。

3 TA制度

一般入試において実施される小論文および口述試験の双方で特に優秀な評価を受けた入学者やそれに準ずる者には、1学年間、TA（ティーチングアシスタント）として、東北大学公共政策大学院における教育活動補助等に従事することで、一定の給与を支給される制度があります（年額80万円の予定）。

在学生から

学業に集中できる環境

宮城県出身
高崎経済大学経済学部卒　**若生　豊**（2021年度入学）

修士卒から行政職員になることで違った価値を提供できるのではないかと考え進学を決意しました。本大学院は講義の質・学習環境・共に講義を受ける仲間、何もかもが学部時代とは異なり、日々新たな刺激を受けながら成長できた1年間でした。また、ＴＡ制度で経済的にゆとりができたことで、勉強時間を確保することができ、大学のカリキュラムだけでなく、資格取得といった自己研鑽にも励むことができました。このように本大学院は学業に集中できる環境が整っていると感じます。

入試関係情報

1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

◉学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
◉討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
◉公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

外国人留学生が本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の日本語能力と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が求められます。

2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集、内部進学者特別選抜の４回に分けて行われます。

※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に３年以上携わった方（例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方）を対象としたものです。
※内部進学者特別選抜は、国家公務員をはじめとした公共性の高い職業を志す東北大学の優秀な在学生を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。
政策法務教育コースの入学試験は、提出書類（スタディ・プラン等）及び口述試験の総合判定により行います。
内部進学者特別選抜は、提出書類（出願書身上書等）及び口述試験の総合判定により行います。

◉小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお薦めします。

過去の小論文の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

◉口述試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「令和5（2023）年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

	内部進学者特別選抜	第１期募集	政策法務教育コース	第2期募集
募集定員	合計30名			
募集要項・出願書類の配布	7月上旬	7月上旬	９月上旬	11月下旬
出願受付	令和4年7月29日(金)～8月4日(木)	令和4年9月8日(木)～14日(水)	令和4年10月17日(月)～21日(金)	令和4年12月20日(火)～令和5年1月4日(水)
入学試験（口述試験）	令和4年8月27日（土）	令和4年10月1日(土)、10月2日(日)	令和4年11月12日（土）	令和5年1月14日（土）
合格者発表	令和4年9月2日（金）	令和4年10月7日（金）	令和4年11月15日（火）	令和5年1月20日（金）

●募集要項及び出願書類（本研究科所定様式）は東北大学公共政策大学院ウェブサイトからダウンロードしてください。
●入学試験は東北大学片平キャンパスまたはオンラインで実施します。
●入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/

2023年度4月入学用の入試説明会及び見学会・相談会 参加費不要

本年度は全てオンラインにて開催いたします。

入試説明会

7月 7/2(土)・7/16(土)

8月 8/6(土)・8/20(土)

9月 9/3(土)

ワークショップⅠ 中間報告会見学会

7/18(月)(祝)・7/19(火)

政策法務教育コース「社会人向け進学相談会」

10/14(金)・10/15(土)

※上記の日程にて、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院
ウェブサイトでご確認ください。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

■ アクセスマップ

- ☐ 東京駅から仙台駅まで約90分
- ☐ JR仙台駅より徒歩15分
- ☐ 仙台市営地下鉄東西線青葉通一番町駅より徒歩7分

■ 片平キャンパス

TOHOKU UNIVERSITY

東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係
TEL. 022-217-4945
E-mail contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。

環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。